

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立瓜破小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。
- ・3つの最重要目標の取組内容についても目標通り達成している。
- ・細かく分析され、今後の課題（目標）も明確にされていると思う。
- ・不登校児童の状況について今後も子どもに寄り添った対応をお願いしたい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【最重要目標1 安心・安全な教育の推進】

○年度末の児童アンケートにおける「いじめ、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を100%にする。

- ・目標の100%には届いていないが、いじめの未然防止そして早期発見のために、いじめアンケート、担任による日々の生活指導等、学校が様々な措置を講じていることは評価できる。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。

- ・6年生で改善が見られたことは評価できる。今後も学力向上のために、基礎基本の定着をさらに図ってほしい。反復練習が効果的ではないかと思う。

【最重要目標 学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%にする。（令和5年度58.2%）→令和6年度62.7%

- ・読書については読書環境の充実を図る必要がある。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・子どもを力で押さえつけるのではなく、子どもの思いを受け止め、理解しようとする取り組みをされているとのこと。今後もていねいに子どもとかかわっていただきたい。